

でとうございます



賀正

『地域活性化の新たな資源づくり』

に力を合わせて

積丹町長 松井秀紀

明けましておめでとうございます。

令和5年の新しい年を町民の皆さんとともに元気で迎えることができました。

1956年・昭和31年9月30日「積丹町」が誕生してから67年、時の困難な町の課題を町民一人ひとりが「町民の融和」を大切に取り越える努力を惜しまない、そんな町づくりの歴史を歩んできました。

そして、自己決定・自己責任という地方分権時代の自治体運営の重要性に、いつも真剣に耳を傾け、ある時は私と職員への叱咤と激励の声を寄せていただいてまいりました。そうした町民の皆さんと町議会議員の深いご理解とご協力に心から感謝とお礼を申し上げます。

昨年は、依然として細心の国民行動が求められる「コロナ禍の苦難」と、国際情勢の悪化や急速な物価上昇の深刻な状況が続く中、灯台遺産の誘致実現や積丹方式のコンブ養殖技術の全国表彰、中学生の全国スポーツ大会での活躍、積丹ジンを介した海森計画の町おこし、地域おこし協力隊の新たな活躍など、様々なまちづくり活動のひたむきな努力が高く評価され、新聞・テレビで道内外に広く積丹町が紹介される機会が大変多い一年でありました。

新しく迎えた2023年・令和5年、政府はコロナを克服して、「経済の回復」、「防衛力の強化」、「脱炭素社会」、「子

育て支援」など、我が国の喫緊の重要課題克服のための「財源の確保」と「国民負担」のあり方の論議の大切さを私たち国民に訴えています。

私たちは、こうした未曾有の国難が続く中にありましても、積丹町での「外から見た視点」と「内から見てきた視点」との融合の中から、改めて郷土積丹の価値を学び、地域活性化の新たな資源を創出し、町の「健全財政の維持」と「行政サービス水準の維持」と「町の活性化」という3つの課題の克服と両立を基本に、クリーンセンター、やすらぎ、学校、役場庁舎などの公共施設の老朽化対策や水産基盤施設整備、地域の防災・減災対策など多くの急がれる懸案の解決を目指し、全道179市町村の一員として「ゼロカーボン北海道」や「自然公園資源の保全活用」への寄与など基礎自治体としての使命と信頼を担い、町民と議会と行政が共に力を合わせていかなければなりません。

私は国や道、民間機関など本町の地域創生に情熱を燃やす「積丹応援団」の方々との協働の力と信頼関係そして、町民の皆さんの融和と郷土愛を大切に、私たちの「郷土・積丹のまちづくり」に弛まぬ努力を続けてまいります。

令和5年の新春を迎えて、町民の皆さんのご多幸とご健勝を心から祈念し、年頭のご挨拶いたします。

2023 年 新年おめ



迎春

「小さくてもキラリ輝く町づくり」

積丹町議会議長 岩本 幹 兒

積丹町の皆様、新年あけましておめでとうございます。
令和5年の新春を積丹町のため、自分の家族を守るために懸命に頑張っている町民の皆様と共に迎えできましたことを本当にうれしく思っております。

しかし、未だ収束の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症の拡大、年々高まりつつある異常な自然災害の脅威、厳しさが続くウクライナの戦況、物価上昇、五輪汚職・旧統一教会問題などに揺れる不安定な日本の政治情勢、貧困層の増加、格差社会の拡大など難問山積の中の新しい年の幕開けとなりました。

けれども、このような時こそ、どうすれば生き残れるか、色々と知恵を絞り、その中から何かをつかみとるという姿勢が求められているものと思っております。

積丹町には、少子高齢化、人口の過疎化、産業の衰退などといった波が相変わらず押し寄せて来てはおりますが、小規模町村は小規模町村なりに都市圏に比較して取り組みやすい対策も数多くありますし、高齢者にとっては住みやすい一面もあると思います。子育て環境についても同様だと思います。

積丹町は海の幸、山の幸にも恵まれた食材の宝庫であり、多くの可能性のある町です。いつまでも住み続けられる、住みよい町づくりを目指して頑張つてまいりましょう。

私たち議会議員も皆で知恵を出し合つて、町民の皆様の代弁者として、町民の皆様が一人でも多く笑顔で「積丹町に暮らせて良かった」と思つて頂けるよう頑張つてまいります。
町民の皆様の一層のご支援、ご理解、ご協力の程を切にお願い申し上げます。

令和5年が積丹町にとって、町民の皆様にとって、今年こそ、今年こそ良き年になること、また皆様のご健康、ご多幸をご祈念申し上げます。
新年のご挨拶とさせていただきます。



広報誌で振り返る卯年の『郷土』

うさぎ ふるさと

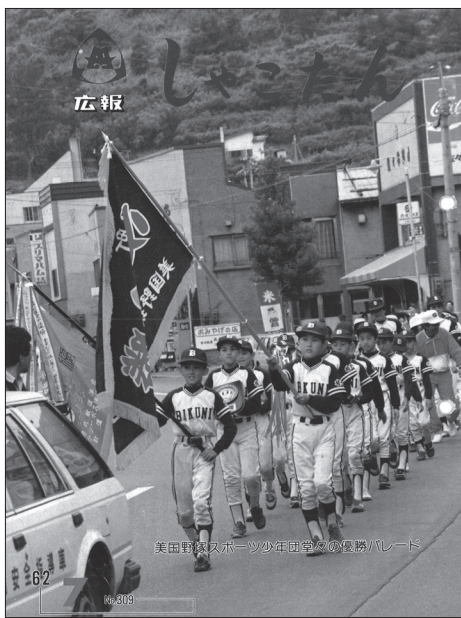
く 2023年 新たな年を迎えて く



2023年、今年の干支^{えと}は「卯」です。昭和31年に積丹町が誕生してから67年。
その歴史の中で「卯年」に起こった積丹町の出来事を広報誌で振り返ってみました。

◀1987年（昭和62年）7月号（第309号）

- ・ 美国野球スポーツ少年団が北海道少年野球後志大会で優勝し、全道大会への出場を決めました。優勝を記念し、美国橋からの凱旋パレードが行われ、沿道には200人以上の観客で盛り上がりました。
- ・ 神岬町沼前から神恵内間の5・8kmの不通区間の内、積丹トンネル702mの貫通を記念して、「積丹トンネル貫通式」が行われました。



▶1999年（平成11年）4月号（第448号）

- ・ 野塚中学校と余別中学校が美国中学校に統合しました。両校ではそれぞれ閉校式が行われ、在校生や地域住民が出席し、母校の閉校に別れを惜しましました。
- ・ 教育委員会と町議会主催の初めての「小学校議会」が行われ、町内小学校5・6年生14名が出席しました。小学生議員の、町長と管理職を相手に堂々とした議論の様子が紹介されています。

◀2011年（平成23年）1月号（第589号）

- ・ 平成23年7月で、アナログテレビ放送の視聴終了により、町では、町内全域の光ファイバ網の整備による地上デジタル放送の視聴、IP電話通信、J-ALERT（全国瞬時警報システム）と連動させる新しい情報伝達システムを同年4月1日から運用開始しました。
- ・ 7月から9月にかけて積丹町を襲った4回の大雨で、国道229号の通行止めや神威岬遊歩道の一部崩落など、町民生活や観光業に大きな影響を与えました。

